

結婚記念植樹祭

二月二十一日の第一回目に引き続き、去る五月十六日、五月晴れの空の下で第二回の結婚記念植樹祭が挙行された。

これは当社の結婚式申込みに当たって「記念植樹費」を献納していただいたので、約百回分まる毎に「記念植樹祭」を挙行して植樹を行っているものである。

前日申込者に対して案内状を発送し出欠を求めた。当社で準備した方が多し、その日の人はかりではないので、約百組の都合であった。二十組の新夫婦が出席された。

午前十一時一同昇殿。新築の正安と、そのあかしとして植樹に奉仕申しする旨の祝詞が上され、代表の二組が敬々玉串捧げを行った。結婚式後始めの夫婦揃っての正式参拝は、かくてめでたき結ばれた。

それより後申すべく先導する神職に導かれて、一同は高層に進む。昇り階の階段のついでに今を盛りと咲き誇る、紅白の花房が新緑に映え、仰ぎ見ると



結婚記念植樹祭の様子



参加者たちの笑顔

の青さが、一同の胸に一時の清浄感を与えた。そして、いとも俗感を離れて植樹に没頭できる今の偉業と思われ、階段を二歩一歩踏んで、

階段を登りつめると、右手に広がる。そこは、約百回の記念植樹の大地。その向うに安海の水が流れて、快く快く風を大きく息を吸って休む。

ここで神職が献木の御話を述べた。台地は一面ローラーにしまつた。その片隅に今日植樹される場所あり、手によって樹が立つ。一同の手によって樹が立つ。感動で代

行せられて、

神社のまわりと云うのは、国家の隆昌、万民の平和幸福を祈るもの以外ない。国家をそれぞれ栄えもある。その意味今日のつとめにはけいむが何よりも大切なことである。

数千年の間、日本人は、国家の繁栄に努めた。それは又その繁栄である。その意味今日のつとめにはけいむが何よりも大切なことである。

今年度の交通安全

家内交通安全

水無月の祭

一五日 月次祭 午前十時

水無月の祭は、かつては、

中世の頃には六月と十二月との間で定められた事であった。現在では、毎月一日十五日に執

田植歌

歌いながら歌いながら、

歌は仕事のかたけ、各地で伝承される田植歌が、

田植の歌は、

歌いながら歌いながら、

歌は仕事のかたけ、各地で伝承される田植歌が、

田植の歌は、

便り

先月十日は、又晴れど、

本降りもあつた。お天気が、

心地よい朝を迎えさせて

先月十日は、又晴れど、

本降りもあつた。お天気が、

心地よい朝を迎えさせて

宗像護国神社 春季大祭

若葉爛々、去る五月十一日、

十時、宗像護国神社の春季大祭が、

宗像護国神社の春季大祭が、

宗像護国神社の春季大祭が、

宗像護国神社の春季大祭が、

社務日誌抄

五月一日 月次祭

二日 内山神社神楽奉納

三日 出光興産百貨店

四日 出光興産百貨店

五日 出光興産百貨店

六日 小野野呂、城宮

七日 福岡県立博物館

八日 昭和三十七年

九日 昭和三十七年

十日 昭和三十七年

宗像大社御用 印刷 大和印刷所

宗像郡宗像町東郷 電話 27番

宗像郡宗像町東郷 電話 27番

宗像郡宗像町東郷 電話 27番

宗像郡宗像町東郷 電話 27番

宗像 卒業させられた

大学も二せん様には手を焼い、

先生は学校の頭痛の種であった。

先生は学校の頭痛の種であった。

先生は学校の頭痛の種であった。

先生は学校の頭痛の種であった。

追憶の類族間に交わされた電文

追憶の類族間に交わされた電文は、

追憶の類族間に交わされた電文は、

追憶の類族間に交わされた電文は、

追憶の類族間に交わされた電文は、

追憶の類族間に交わされた電文は、

布石 (二)

白山城に入った氏直は、

白山城に入った氏直は、

白山城に入った氏直は、

白山城に入った氏直は、

白山城に入った氏直は、

寺内治部光俊

この賞詞は「宗像」と

この賞詞は「宗像」と

この賞詞は「宗像」と

この賞詞は「宗像」と

この賞詞は「宗像」と

宗像十四城 (一)

「宗像十四城」とい

「宗像十四城」とい

「宗像十四城」とい

「宗像十四城」とい

「宗像十四城」とい

山下半可作

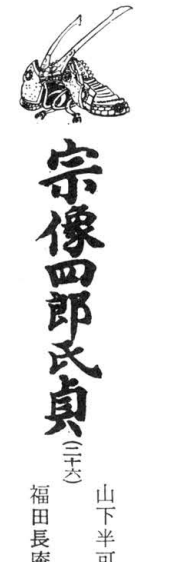
山下半可作

山下半可作

山下半可作

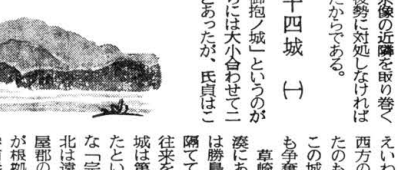
山下半可作

山下半可作



山下半可作

許斐山遠望 (東側)



許斐山遠望 (東側)

この山は、

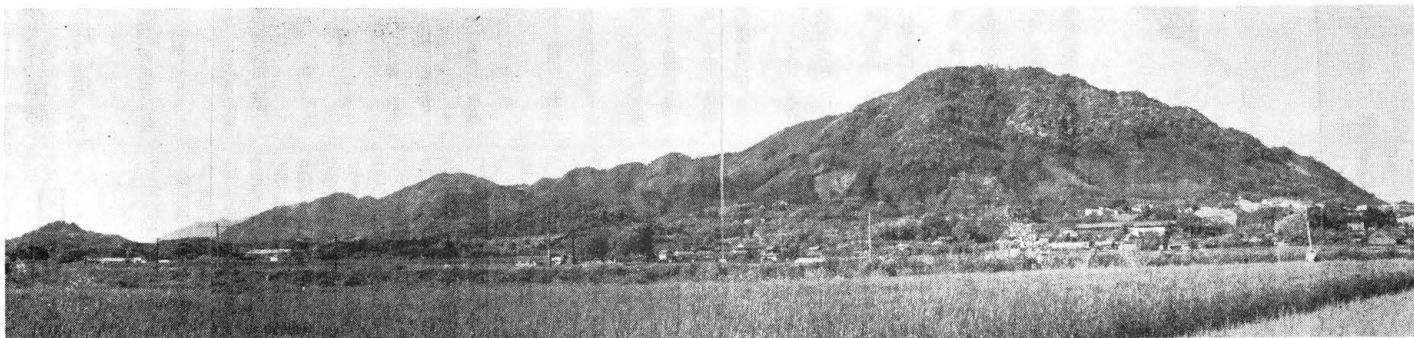
この山は、

この山は、

この山は、

この山は、

山城の初夏の青さとふるさとの心に忘れ得ぬ人の像の宗



福岡交通センター

上棟式並びに定礎式

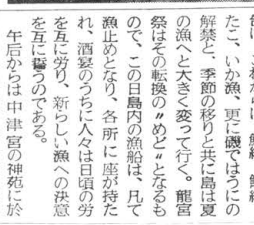
去る五月八日、午前十時福岡交通センター上棟式及び定礎式が当宗像大社の司祭により行なわれ、

去る五月八日、午前十時福岡交通センター上棟式及び定礎式が当宗像大社の司祭により行なわれ、

去る五月八日、午前十時福岡交通センター上棟式及び定礎式が当宗像大社の司祭により行なわれ、

去る五月八日、午前十時福岡交通センター上棟式及び定礎式が当宗像大社の司祭により行なわれ、

去る五月八日、午前十時福岡交通センター上棟式及び定礎式が当宗像大社の司祭により行なわれ、



この建設現場に、宗像大社の司祭が参り、上棟式及び定礎式を行なう。

海上安全大漁祈願

龍宮祭

大島津崎にて

風雲五月五日の日の、中長、婦人会長、駐所警察官、その他一般参列者を乗せて波止場を出発、海路本場へ向う。港を出れば、右手に迫る鮮やかな新緑の山、左手に広がる青碧の海原、船上を渡る風は爽やかで、いかにも龍宮の名にふさわしい。

風雲五月五日の日の、中長、婦人会長、駐所警察官、その他一般参列者を乗せて波止場を出発、海路本場へ向う。港を出れば、右手に迫る鮮やかな新緑の山、左手に広がる青碧の海原、船上を渡る風は爽やかで、いかにも龍宮の名にふさわしい。

風雲五月五日の日の、中長、婦人会長、駐所警察官、その他一般参列者を乗せて波止場を出発、海路本場へ向う。港を出れば、右手に迫る鮮やかな新緑の山、左手に広がる青碧の海原、船上を渡る風は爽やかで、いかにも龍宮の名にふさわしい。



写真は祭典風景

毒舌放談

また選挙の時期が近づいて来た。例年、明るく正しい選挙、公明選挙、など外見上は

また選挙の時期が近づいて来た。例年、明るく正しい選挙、公明選挙、など外見上は

また選挙の時期が近づいて来た。例年、明るく正しい選挙、公明選挙、など外見上は

選挙に思う

選挙は、人間が立候補し、人間が人間を選ぶわけだが、神にあらざる限り人間は、如何なる賢者であつても、一人で完全なる人格を有する者はない。

選挙は、人間が立候補し、人間が人間を選ぶわけだが、神にあらざる限り人間は、如何なる賢者であつても、一人で完全なる人格を有する者はない。

選挙は、人間が立候補し、人間が人間を選ぶわけだが、神にあらざる限り人間は、如何なる賢者であつても、一人で完全なる人格を有する者はない。

選挙は、人間が立候補し、人間が人間を選ぶわけだが、神にあらざる限り人間は、如何なる賢者であつても、一人で完全なる人格を有する者はない。

選挙は、人間が立候補し、人間が人間を選ぶわけだが、神にあらざる限り人間は、如何なる賢者であつても、一人で完全なる人格を有する者はない。

選挙は、人間が立候補し、人間が人間を選ぶわけだが、神にあらざる限り人間は、如何なる賢者であつても、一人で完全なる人格を有する者はない。

生魚料理 玄海の風味を食膳に あげぼの庄 宗像郡支海町神湊 電話 神湊 六六番

往来町

- 福岡小學校の新校舎竣工式
宗像町婦人会幹部講習会
宗像町消防団入団式
赤間公民分館、交通安全会
宗像町青年会運動の作文入賞
赤間町青年会運動の作文入賞
宗像町青年会運動の作文入賞

宗像伝説 其の五十 節女お政

安永年間終り頃、宗像郡赤間。行政管轄違つて、竹丸村の大黒屋七兵衛の家に女子が生ま



お政の墓、法名凝香深徳信女

お政の墓、法名凝香深徳信女 近所親しき人、聞請し度く、そへ、目八ともなつて、親の定め

